

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部人文学科3年

氏名: 石塚 真由

授業科目名	グローバル実地研修 (地域人材育成プラットフォーム かがしまグローバル教育プログラム必修科目)
研修先(大学・国・都市名)	遠隔研修: 西オーストラリア大学、同大学大学英語教育センター(CELT)による遠隔講義プログラム
研修期間	令和2年8月17日 ~ 令和2年9月18日
<p>〔研修を通じて学んだこと〕 * 研修を通じて、グローバルな視点や能力をどのように得ることができたか。</p> <p>今回の研修では5週間西オーストラリア大学英語教育センター(UWACELT)でオンライン英語学習を受講しました。CELTでの授業が始まる前にオンラインでレベルチェックがあり、クラス分けがされました。私のクラスは日本人が11人、香港から受講している学生が1人の合計12人のクラスで、授業のテーマは各週決まっておりますスピーキング重視のクラスでした。</p> <p>1週目は、人の見た目をどう表すかについての語彙について学び、アボリジニの文化や考えについても、アニメーションを見ながらアボリジニは動物と対等に共存しているということを学びました。アボリジニのpaintingについては、一つ一つの形にはそれぞれ意味があって動物や自然について語り継がれてきているのだということを感じました。</p> <p>2週目は、「A good hobby is like a true friend」というテーマでspeakingの活動から始まり、Readingでは「旅行の失敗談」を読み、内容理解の後Listeningも行い、理解を深めました。別のSpeakingの活動では、様々な項目ごとに自分の町の評価をし、パース市と比較するというものでした。その中で鹿児島は空気はあまり汚染されていないが灰の影響があるという話になりました。週の終盤では、第1週目に提出していたWritingの個別添削をしてもらいました。私は1つのことを詳しく説明しようとした時に語順「word order」のミスをしてしまいがちだということ、また関係代名詞を使ったときに主語が抜けてしまうことが分かりました。しかし「Your writing is pretty good!」と言ってもらえたことで自信につながりました。2週目全体を通しては、先生の言葉もよりクリアに聞こえるようになり、他の学生と交流したときの聞き取りづらさにも慣れてきたように感じました。母語話者の英語はもちろん、英語を外国語として話している人の英語も聞き取れるようになりたいと考えていたため、手応えがありました。</p> <p>3週目は、テーマが「health(健康)」で、体調や症状を表現する語彙などを重点的に学びました。語彙や文法に関しては、「should / should not」の使い方や「動詞+ing」、「If ...I/You will」について復習などをし、自分が使用する際の精度をより高めました。Speakingでは、健康チェックを英語で行いました。また、健康的な仕事とは何か、給料はどうか、面白い仕事か、という3つの観点から自分が目指している職業はどうか、というディスカッションも行いました。私は給料が低かったり、健康的でなかったりしても面白い仕事をした方がいいと思っていましたが、私のグループでは自分たちが目指している仕事はつまらない仕事だと考えている人が多かったのが意外でした。先生の、職場で自分が何年働くのかという見方によって考え方が変わっていくのではないかと考えに納得しました。3週間目では他の授業の外国人学生との交流もあり、より多くの人との英語と考えに触れることができたと感じました。</p> <p>4週目は、テーマが「language learning」で、そもそも言語学習をするときにした方がいいこと、しない方がいいことは何かをブレイクアウトルームで話し合い、その後類似のテーマの文章を読みました。この授業の中で「ミスを恐れてはいけない」という言葉が出てきて、このクラスでももちろんそうだなとも思い、4週目に当たるこの授業では間違いを恐れずにたくさん話せているのではないかと感じました。週の終わりにはまとめとしてReading、Speaking、Writingのテストが実施されました。Readingは文章を読んで正誤を答える問題や文章題、段落のトピックを答えるというものでした。Speakingではペアで先生に呼ばれ、自分の出身地や休日の話などを聞かれて答えていく形式で、質問内容は比較的聞き取れましたが、時々スピードが速いと理解するのに1・2秒かかってしまう質問もありました。Writingでは身の回りの人を1人取り上げて説明する150wordsと、電子メールのフォーマルな質問150wordsを書きました。</p> <p>最後の5週目は、テーマが食べ物で、調理方法の単語を覚えたり、オーストラリアの伝統的なパンである「Damper」の作り方も学びました。また、オーストラリアの市場について学び、日本では最近魚や肉の専門店や市場は少ないですが、オーストラリアでは多いということを知りました。スーパーマーケットにも魚や精肉は売っているようですが、冷凍のものが多く新鮮ではないと感じているようです。</p> <p>文法・語彙に関しては、「a lot of, many, much」の使い分けを確認し、自分はあまり意識して使い分けられていなかったため、語彙力向上につながりました。授業後には今年の夏CELTで学んだ学生のインタビューがあり、私はレベル3クラスの代表でzoomの英語のインタビューに参加しました。なぜCELTを選んだのか、授業はどうだったかなど20分ほど話しました。</p> <p>5週間全体を通して、上述のような英語能力の伸びとともに、グローバルな視点や能力に関しても、日々のSpeaking・Readingの活動から学ぶことができたと思います。</p> <p>まず、オーストラリアについては、教材の内容にオーストラリアがテーマのものが多く、オーストラリアの歴史や先住民、食べ物について現地の先生方の生の声を聴けたという点がとてもよかったと思います。中でも印象的だったのは、先住民をテーマにしたアニメーションから「先住民・オーストラリアの人々は動物や自然と共存している」ということ、また、オーストラリアには「School of the air」という学校制度があるということです。これは農家などで、学校がある都市から離れて住んでいる子供たちがオンライン授業を受けることができる学校システムで、「なかなか友達には会えないけれど良いシステムだと思う」と話す女の子を見て、現在のコロナの状況を思い浮かべました。さらに、このようなシステムが確立しているためにCELTのようなオンライン授業も実施しやすかったのではないかと感じました。</p> <p>次に他の国々に関しては、通常の授業後の時間にアジアからヨーロッパまで各国の学生と話す機会があり、彼らの夢や目標を聞くことで自分自身も頑張りたいと思うことができました。</p> <p>最後に「英語を使う」ということに対する心理的な壁が以前よりなくなり、英語を使ってコミュニケーションをとることができる楽しさや、コミュニケーションをとることで「繋がり」を持つことができる喜びを改めて感じました。人は国籍や地域に関わらずそれぞれの価値観を持っているということ、その考えを聞く1つのツールとしての英語の大切さを改めて感じるようになりました。</p>	

〔研修後の抱負〕 \* 今後、地域のグローバル化や活性化に寄与するために、どのような取り組みをするかについても記載すること。

私が今後、地域のグローバル化や活性化に寄与するための取り組みとして考えていることは大きく3つあります。

1つ目は、事後学習として自身が設定した、オーストラリアの学生や人々にアンケートを取り、オーストラリアから鹿児島への観光客を見込むにはどうしたら良いかについて考えることです。今回のオンライン英語学習で繋がることができた先生方やクラスメイトに協力してもらい、鹿児島の認知度や彼らが興味のある物事についてアンケートを集計し、そこから見えるオリジナルの観光地ルートなどを作成したいと考えています。また、オーストラリア全体に向けては困難だとしても、繋がることのできた学生たちに「鹿児島に来たい」と思ってもらえるような鹿児島の魅力をアピールしたいと考えています。

2つ目は、今回の英語学習を始め、大学1年の時に参加した台湾研修や中国語学習を生かし、留学生とさらに繋がりを作っていきたいということです。これまでに大学のプログラムであるグロスペ外国語や留学生とのディスカッションを含んだ授業は受講してきましたが、より多くの学生とより繋がりを深めていきたいと思っています。そして鹿児島と彼らの架け橋のような存在になることができたらと思います。

最後は、TOEICや中国語検定を受検し、英語と中国語の語学力を向上させることです。英語学習だけに満足せず、より伝えられる語学力を高めていきたいです。私は将来マスコミ関係の職に就きたいと考えており、相手の思いを自分の言葉で伝えるためにも語学力が必要だと考えています。この目標のためにも今後も努力を続けていきたいです。